



東 田

ひがした

令和2年1月8日 NO.522

杉並区立東田小学校

<http://www.suginami-school.ed.jp/higashitashou/>

一年の計は元旦にあり

校長 森田 康之

明けましておめでとうございます。

東京の年末年始は天気が安定し、令和2年のスタートは穏やかなものとなりました。

“始めよければ終わりよし”とするならば、世界中がざわざわしていた昨年と変わって、今年は穏やかな一年となりそうです。オリンピック・パラリンピックもあります。そうあってほしいものです。

さて、“一年の計は元旦にあり”と言います。一年の計画は年の初めである元旦に立てるとよい、ということですが、「元旦」を「春」に、また、“一日の計は朝にあり”と言ったりもするようです。何かを始めるなら早い方がよい、初めの段階でしっかり計画を立てるとよいという意味ですね。

すでに、ご家族で今年の計画を立てられたご家庭は今一度、また、まだ計画を立てていないというご家庭はこれを機に“一年の計”を立ててみませんか。

私がお願いしたい計画は、**この一年間のお子さんを成長させる計画**です。

計画を立てるためには、先ず目標がなくてはなりません。

【どんな子供になってほしいのか・どんな子供であってほしいのか】。「落ち着いている子」「優しい子」「明るい子」「元気な子」「何事にも一生懸命な子」「粘り強い子」等々、どれも大事な性質ですが、ここでポイントとなるのは、多くを求めないこと、

一つに絞ることです。“二兎を追う者は一兎をも得ず”といえますね。

また、【どんな子供になってほしいのか・どんな子供であってほしいのか】を考える際に大切なのは、お子さんの短所と捉えている性質から考え始めないことです。「うちの子はいつもあちこち行って落ち着きがないから、〇〇君のように落ち着きのある子になってほしい」。そうそう、他の子と比べるのも厳禁です。いつもあちこち行くというのは、行動力があり、物事や人に対して興味関心が高いということです。「うちの子は、話せば自分のことばかりだし、何でも一番になりたがる気の強い子だから、優しい子になってほしい」。内気で引っ込み思案で、いつも物怖じて人前に出ない子の親からすれば、うらやましい性質です。

世の中、見方を変えると違ったよさが見えてくるということは、よくあります。

まずは、お子さんの性質・特徴をしっかりと見極めて、他の子との比較ではなく、マイナスから考えるのではなく、そう、お子さんが生まれた瞬間に、命名するときにどんな思いを込めて、どんな子になってほしいと願ったのか思い出してみるのもよいかもしれません。

大事が決まると、あとは枝葉末節となり、お子さんへの小言が減る効果もありそうです。

今年一年が皆様にとって良い年となりますように願っています。

1月の生活目標

れいぎ正しくしよう

皆さんは、今年の目標は立てましたか。上にもありますが「1年の計は元旦にあり」といいます。物事を始めるには、最初にしっかりと計画を立てたほうが良い、という意味です。礼儀や挨拶も、同じことだと思います。1年の最初に、家族や友達、周囲の人に、気持ちを込めて礼儀正しく振舞うことができれば、1年間しっかり続けられるのだと思います。学校でも心を込めた挨拶や言葉遣いが更にできるよう、声をかけていきます。

- あいさつをきちんとしよう。(おじぎやえしゃく)
- ことばづかいを正しくしよう。
- 友だちの呼び方を考えよう。

